江戸まち通信

平成二十九年十月号

特集・屋形船
川遊びの神髄を極める
伝統を支えた下水道

試乗記・林溪清の乗ってみました

レインボータウンＦＭ　番組表

江戸まち散歩

江戸の「いき」を今に伝える川遊び 屋形船を極める

■江戸開府と水路の整備

徳川家康が江戸に入府したのは16世紀後半、1590年（天正18年）のこと。そのとき、太田道灌が築城した当時の江戸城と城下は荒廃しており、家康にとっては自らが居住する城と、多くの家臣たちの住む城下町の整備は急務だった。

その建築資材や食料をはじめとするさまざまな物資を効率よく運ぶために、日比谷の入江をはじめとする沿岸部や湿地を埋め立てて土地を拡張するのと同時に、水路の確保が行われた。

「東洋のベニス」と言っても過言ではない水の都である江戸（＝東京）を縦横に走る水路のほとんどは、こうして作られた運河なのである。

堀を穿ち、山を崩して、そこから出た土を使って埋め立てを行う。こうして江戸城を中心とする江戸の町は形成されていった。

こうして生まれた水路網は、建築資材のみならず食料や調味料など、さまざまな物資の運搬に利用された。東京湾からは木材や魚が、千葉方面からは農産物が、銚子からは醤油が、行徳から塩が、隅田川から柳橋を経て神田川を経由して日本橋川にある市場まで、毎日のように生鮮品をはじめとするさまざまな物資が運ばれてきたのである。

日本橋川の岸にあった市場だから「河岸」と呼ばれたという説があるが、あながち外れていないと思われる。だからこそ、今でも海辺にある築地の市場のことを「河岸」と呼ぶのだ。

こうして水路とともに発展した江戸に住む人々は、今度はその水路と川を楽しむようになる。それが江戸の舟遊びの原点なのである。

武家や豪商が楽しんだ舟遊びは庶民に広がり、春夏秋冬、四季を通じて舟遊びを極め、発展させていったのだ。

■落語にも登場する舟遊び

江戸の「いき」を今に伝える文化としてまず思い浮かぶもののひとつに「落語」がある。そこにもさまざまな舟遊びの風景が映し出されている。

道楽三昧の末に勘当された若旦那が船頭修行をする『船徳』、川岸に舫った船の上であくびをする『あくび指南』など、大川（隅田川）を舞台とする話も少なくない。どちらの噺にも共通するのは、両国橋近くの柳橋辺りから吉原を目指す道程で、落語調に道行の言い立てでやれば、

「柳橋をすっと出て、大川を上へ遣り、蔵前橋、厩橋、駒形橋、吾妻橋と過ぎて、言問橋の先にある山谷堀を左に上ればそこが吉原・日本堤、船から下りれば見返り柳と吉原大門」

となるわけで、今でも屋形船に乗ればこの経路を辿ることができる。

ちなみに『あくび指南』に登場する「首尾の松」は、蔵前橋の下流100メートルほど。川の西岸に置かれた幕府のお米蔵の船着場にあった、枝振り豊かに川面に張り出している松のことだと伝えられている。枯れたり、火事で燃えたりして今では面影はないが、蔵前橋の西の袂に記念碑が設置されている。

もうひとつ、『厳流島』という噺に登場するのが両国橋と吾妻橋の間にあった「御厩の渡し」である。隅田川にはいくつもの橋が架けられていたが、武家や侍達の便宜のため武家優先で運行されていた渡し船で、噺によれば町人たちも同乗が許されていたようである。噺の筋はさておき、若い武士の落とした煙管の雁首が手の届かない川底に沈んでいき、泡が見えているというくだりを聴くと、江戸時代の隅田川がどんなに澄んでいたかをうかがい知ることができる。

川面を渡る風も爽やかで、清らかな水が流れている隅田川の姿がそこにある。

写真提供：柳橋 舟宿 小松屋

■川遊び、いま・むかし

江戸から東京へと変貌を遂げた大都市の生活排水や工業排水で汚れ、見る影もなく汚染してしまった大川（＝隅田川）だったが、下水道の完備などにより大幅な改善が図られ、かつての「いき」な風情を楽しめる川遊びが復活している。

汚染がひどい時代には、かの早慶レガッタさえも会場を他所に移したほどだったが、いまは川風の気持ちよい季節には窓を開けて流れる風を感じることができるのだ。江戸の「いき」を今に伝える川遊び。ある意味で、窓を開け、川風を肌に感じてこそともいえるだろう。

春には墨堤の桜、夏には花火、秋には川風を味わい、冬には忘年会や新年会。江戸の川遊びは四季折々の楽しみ方ができるが、窓を開けて楽しめる秋の屋形船は一つの神髄ともいえるだろう。

江戸時代川遊びに多く使用されたのは漁師が使っていた早船を小型化した猪牙船（ちょきぶね）。今でいうタクシーかハイヤーのように、柳橋辺りの料亭からチャーターされたり、船宿などで用立てられたりしたという。それが大型化され、日よけ船とも呼ばれる屋根船が登場すると、交通手段というより船に乗ること自体が楽しみの対象となり、川遊びが本格化していったのである。

時には豪商などの豪華になりすぎた川遊びを規制する動きもあったが、庶民に広がった川遊びは廃れることがなかった。

ちなみにその頃になると、船内で簡単な酒肴や茶・菓子を出したり、料理茶屋に料理を頼んで船内で調理や仕上げをしてもらったり、重箱などの弁当を供するサービスがスタートしていたそうである。

こうして隅田川を中心に発達してきた江戸の舟遊びは武家だけでなく一般庶民の間にも浸透し、今の屋形船に受け継がれてきたのだ。

■現代の川遊びの楽しみ方

まず、屋形船の利用だが、基本的に2種類ある。

●乗合船

家族など、少人数のグループ向き。季節にもよるが他のグループとはテーブルが離れているので、乗合船でもゆったりと過ごせることが多い。おおむね2名より乗船できる

●貸切船

江戸の「いき」を味わうならこちら。昔から屋形船を貸切るのは贅沢な遊びとされてきた。一団体で貸切るが、少人数の場合は最低催行人数分を支払えば利用できる。

さらに、船のサイズや定員、座席（掘りごたつ式等）、展望デッキの有無など、船宿や船個体によってもさまざまな選択肢があるので、まずは問い合わせてみるのがいちばんである。

ちなみにキャンセル料については、組合規定により、予約日の30日前までは10％、29～15日前は30％、14～7日前は50％、6～2日前は70％、前日、当日は100％のキャンセル料がかかる。

ついでながら、今の屋形船は冷暖房完備、水洗トイレ、船体の幅が広いので横揺れも少なく船酔いもしにくい構造になっているそうである。

写真提供：柳橋 舟宿 小松屋

屋形船東京都協同組合

〒111-0052
東京都台東区柳橋 1-5-11　篠塚ビル 3F
TEL：03-5825-5526
FAX：03-3851-5516

営業時間 10：00～18：00
定休日：火・日・祝日

ホームページ
http://www.yakatabune-kumiai.jp/

屋形船のことなら何でもご相談を

屋形船東京都協同組合事務局
（公式 屋形船予約デスク）

台東区柳橋、神田川にほど近い篠塚稲荷神社のすぐ裏手に、屋形船東京都協同組合の事務局はある。

事務局の高橋呂美さんと野林信乃さんは、屋形船のことなら何でも相談できる心強いスタッフだ。

人数から、料理のリクエスト、最寄りの乗船場、もちろん貸切から乗り合いまで、都内38ある会員の船宿から最適な一軒を探し出してくれる。

事務局長の高橋さんによれば

「予約段階ではなくても、なんでも気軽に相談していただけます」

とのことで、船酔いの心配がある場合には揺れの小さな大きめの船を探すなど、きめ細かな対応をしてくれる。

「揚げたての江戸前天ぷらは、ぜひお楽しみいただきたい屋形船の楽しみのひとつです」

お二人の親身な手配で、より楽しい屋形船の楽しみ方が体験できる。ぜひいちど相談してみてはいかがだろうか。

「カラオケも良いけれど、秋は水上からならではの美しい夜景が楽しめる季節です。せっかくの風景なので、船の窓を開けて東京の夜景を楽しんでいただけたらと思います」

高橋さん、野林さんが口を揃えておすすめする、秋の屋形船の楽しみ方だ。

水面を渡る夜風にあたり、遠い江戸に想いを馳せながら夜景を楽しむのも一興である。

屋形船東京都協同組合　加盟一覧

平成 28 年 3 月 18 日現在

◆隅田荒川支部

No.	船宿名	TEL	郵便番号	住所	MAIL Address
1	つり清・駒形	03-3841-1417	111-0043	台東区駒形 2-1-3	komagata@ha.bekkoame.ne.jp
2	釣　新	03-3622-3572	130-0004	墨田区本所 1-3-11	info@yakatabune-tsurishin.com
3	あみ清	03-3844-1869	111-0034	台東区雷門 2-20-12	amisei@kch.biglobe.ne.jp
4	濱田屋	03-3881-2314	120-0022	足立区柳原 1-14-5	info@hamadamaru.com
5	釣　庄	03-3625-2015	130-0002	墨田区業平 4-18-13	tsurisyo-maru@nifty.com
6	山田屋	03-3611-0813	131-0041	墨田区八広 6-27-1	info@yakatabune.ne.jp

◆神田川支部

7	三浦屋	03-3866-4041	111-0053	台東区浅草橋 1-1-10	info@funayado-miuraya.co.jp
8	あみ春	03-3866-5878	111-0052	台東区柳橋 1-3-1	info@amiharu.jp
9	あみ新	03-3851-9644	111-0052	台東区柳橋 1-3-3	amishin@nifty.com
10	田中屋	03-3851-6318	111-0052	台東区柳橋 1-3-5	info@tanakaya.net
11	野田屋	03-3851-8924	111-0053	台東区浅草橋 1-1-5	funayado@f-nodaya.com
12	井筒屋	03-3851-2483	111-0052	台東区柳橋 1-2-3	
13	小松屋	03-3851-2780	103-0004	中央区東日本橋 2-27-22	oyakata@komatuya.net
14	鈴木屋	03-3666-7605	103-0004	中央区東日本橋 2-27-12	keiji@suzuki-ya.co.jp

◆佃中央支部

15	金　子	03-3531-0898	104-0052	中央区月島 2-10-1-505	moto30@alles.or.jp
16	冨士見	03-3641-0507	135-0045	江東区古石場 2-18-5	info@f-fujimi.com
17	あみ亀	03-3641-8608	135-0034	江東区永代 1-11-5	kamecyan
18	晴海屋	03-3644-1344	136-0074	江東区東砂 6-17-12	info@harumiya.co.jp

◆浜松町支部

19	網　長	03-3451-2061	105-0014	港区芝 1-1-2	info@amicho.com
20	辰　金	03-3451-0703	105-0014	港区芝 1-1-1	info@tatukin.com
21	縄　定	03-3431-5629	105-0013	港区浜松町 2-13-11	kounan@atlas.plala.or.jp
22	なわ安	03-3451-1379	105-0014	港区芝 1-3-1	info@nawayasu.com
23	はしや	03-3431-5518	105-0013	港区浜松町 2-13-12	info@848.co.jp
24	竹　内	03-3432-8648	105-0013	港区浜松町 2-13-11	info@takeuchi-ship.com

◆品川港南支部

25	えびや	03-3474-1222	108-0075	港区港南 4-2-36	ebiyawakasa@yahoo.co.jp
26	芝浦石川	03-3451-1228	108-0023	港区芝浦 4-12-44	i-dai@cello.ocn.ne.jp
27	東京遊覧汽船	03-3742-5656	143-0013	大田区大森南 5-6-3	info@yakatabune.com
28	中　金	03-3471-4531	140-0002	品川区東品川 1-1-17	funayado@nakakin.com
29	三河屋	03-3471-3454	140-0002	品川区東品川 1-1-14	yamada@funayado-mikawaya.com
30	むつみ丸	03-5463-6230	140-0002	品川区東品川 1-1-11	mail@6230.jp
31	大江戸	03-5479-7007	140-0001	品川区北品川 1-16-1	nakazawa@o-edo.net
32	縄　徳	090-3227-4307	146-0093	大田区矢口 2-5-13（村石宛）	naochan.36nawatoku@docomo.ne.jp
33	平　井	03-3471-9267	140-0001	品川区北品川 1-21-1	funayado.hirai@ab.auone-net.jp
34	丸　長	03-3474-4275	108-0075	港区港南 5-1-23	maru@marucho-maru.com

◆江戸川支部

35	あみ貞	03-3679-3576	104-0053	東京都江戸川区江戸川 4-4	info@amitei.jp
36	たかはし丸	03-3674-2780	133-0043	東京都江戸川区松本 2-40-3	info@takahashimaru.com
37	あみ達	03-3655-2780	132-0015	東京都江戸川区西瑞江 4-1-20	info@amitatsu.jp
38	あみ幸	03-3680-5755	134-0013	東京都江戸川区江戸川 5-31-6	amikou@amikou.jp

★屋形船東京都協同組合　事務局

		03-5825-5526	111-0052	台東区柳橋 1-5-11　3F	info@yakatabune-kumiai.jp

江戸のまちづくりから始まった川遊び
下水道が果たした役割とは

■水を制し、活用した江戸のまち

屋形船の記事にもあるように、1590年（天正18年）に徳川家康が江戸に入った時、江戸城の周りには人が住める平坦な土地が少なく、現在の日比谷から大手町にかけては日比谷入り江、日本橋から有楽町にかけては江戸前島と呼ばれ、葦原や干潟、浅い海がひろがっていた。家康が最優先したのは、この江戸城周辺の江戸湾の干潟や浅い海の埋め立てと水路を巡らせた水運利用の町づくりだった。

江戸時代埋め立てられて出来上がった土地は、隅田川を越えて2700ヘクタール以上にもなり、およそ東京ドーム580個分の面積にあたる。

こうして生まれた「水を活用した物資の運搬システム」は江戸の町の急激な発展を可能にし、江戸は幕末の頃には100万人が暮らす世界でも有数の大都市に発展する。

この発達した河川の流路と掘割は、江戸の住人にとって大切な交通網であると同時に、武家から町民まで幅広い層のレジャーの舞台としても活用された。クーラーも冷蔵庫もない時代に、江戸の人々は夏場に涼を求めるため、江戸の町を縦横に走る掘割の川べりで夕涼みをし、隅田川で川遊びを楽しんだのである。

今に伝わる両国の川開きも、1733年（享保18年）、8代将軍吉宗が前年の凶作によって発生した100万人近い餓死者とコロリと呼ばれる伝染病（コレラだと言われている）で亡くなった多くの死者の慰霊と悪病退散を祈って両国橋の近くで「水神祭」を行い、川端の料理屋が施餓鬼（せがき＝死者の霊を供養する会）を開催し、その余興として花火を上げたと伝えられており、それが夏の到来を告げる行事である隅田川の川開き（旧暦の5月28日＝現在の6月末頃）と花火大会の始まりとされている。

■隅田川の汚染と下水道

川開きの花火といえば、忘れてはならないのが柳橋の料亭。神田川が隅田川に注ぐところに架かる柳橋のたもとは江戸時代から花街として栄え、花火の時などは料亭ごとに複数の船が出て、最盛期には川面に200隻もの納涼船が出たそうである。

当時の隅田川は、潮が引くとシジミが漁れるくらいきれいな川だったが、明治以降の急激な人口増加、さらに高度経済成長期の首都圏道路網の整備により、工場排水や生活排水が大量に流れ込み、隅田川の水質は急激に悪化していった。

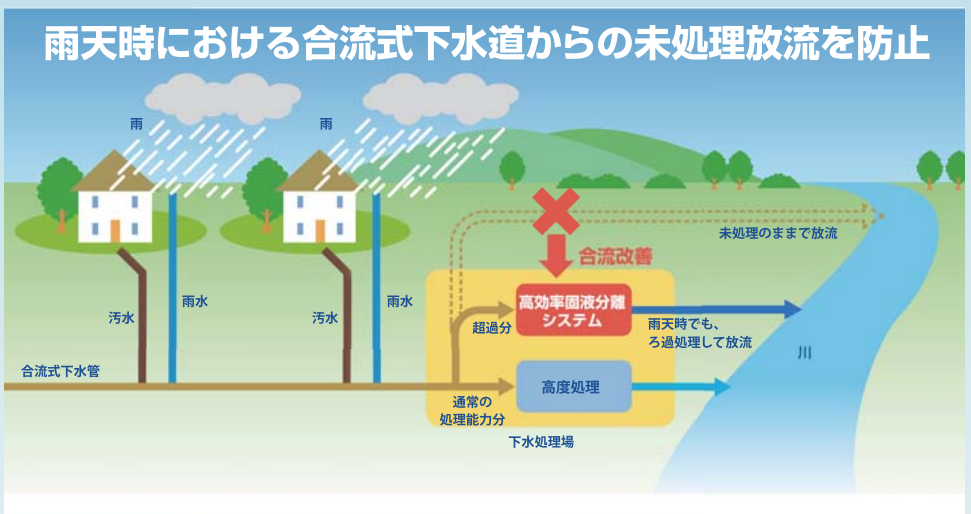
周辺の汚染物質をすべて飲み込み隅田川には生き物は生息できないとさえ言われ、悪臭のために都民は川に近寄るのも敬遠し、その臭いは橋の上を通過する都電の車内にまで届いたという。

こうした状況の下、隅田川の春の風物詩として知られる伝統のボートレース『早慶レガッタ』も1962年（昭和37年）以降戸田ボートコースや荒川に移ることを余儀なくされたのである。

この隅田川の汚染を改善すべく、まずは工場排水の規制強化や利根川からの浄化用水の導入がおこなわれ、さらに下水道の整備が進むにつれて、水質は大幅に改善され、現在では魚が棲めるまでにその水質は改善されてきている。

1978年（昭和37年）には、かの『早慶レガッタ』も17年間ぶりに隅田川に戻ることとなった。

とくに下水道の整備が急速に進んだのは水洗トイレの普及が急務だった前回の東京オリンピック・パラリンピックが開催された1964年前後で、以降着々と普及は進み、平成6年度末には東京23区全体の100パーセント普及概成（99・5パーセント以上普及）が発表されている。



■ゲリラ豪雨と合流改善

現在東京都の下水道が採用しているのが「合流式」と呼ばれる下水道処理のシステムである。

下水道処理にはこの「合流式」の他に「分流式」もあるが、河川と東京湾の水質浄化が急務であったという背景もあり、工期が短く、構造も簡単な「合流式」が採用された。

ところが、昨今の地球温暖化等の影響によって、「ゲリラ豪雨」のようなかつてなかった降雨が起こるようになった。以前では考えられなかった一極集中型の豪雨が発生すると、雨水と汚水を同時に処理する「合流式」の下水処理では設計段階での想定を遥かに超える雨水が下水管に流入し、処理しきれなくなった水が溢れ出してしまう現象が起きるようになったのだ。

通常の状態では浄化された処理水のみが排出される汚水処理施設だが、ゲリラ豪雨などによって一気に雨水の量が増えてしまった場合には、一部の汚水がそのまま放出されてしまうことが起こるのである。

そこでさまざまな解決策が模索されてきた。まずは調整池の設置である。豪雨によって下水道管の中の水位が急上昇した際に、下水道管内に設置した堰（せき）を超えた分の雨水を貯める池を設置するようにし、浸水被害等を最小限に食い止める方法である。ちなみに貯留した雨水は、晴天時に排水ポンプで下水道管渠に排水する。

また貯留のための池を置くスペースが確保できない場合には直径が3～5メートルという太い下水管を設置し、一時的にそこに雨水を貯める「貯留管」が設置される。いずれも急激な雨水の流入による下水処理施設の水位の上昇を抑える目的である。

■処理速度アップと高度処理

これまでの対策だけでは、大きく変動する気候に対応しきれない場合もあることから、下水道では新たな取り組みにも力を入れている。

ひとつは、前項の下水処理場に流入してくる雨水をいかに減らすかという「合流改善」だが、もうひとつ、大量に流入してしまった合流水

官民が東京湾再生のために
協働する唯一のお祭り。
海にいいこと、やさしいこと、はじめよう！

東京湾大感謝祭
開催

■「TOKYO WONDER PROJECT」

今年も東京湾大感謝祭がやって来る。市民や企業、団体と国や自治体がともに、海の再生を考え、行動するきっかけを提供する場として2013年秋に初開催されてから今年で5回目。

昨年は横浜赤レンガ倉庫とその周辺海上を舞台に9万8千名にもおよぶ市民や企業、団体、国、自治体の関係者が参加し大盛況となった。

会場では民・官を問わずエコ・CSR活動や、環境配慮製品・サービス、マリンレジャー、自然の恵みに満ちた飲料・食料、市民活動支援などの紹介、体験などが展開され、赤レンガ倉庫前の広場はテントと来場者で埋め尽くされる。

このイベントはそもそも「全国海の再生プロジェクト」の一環としてスタートしたもので、東京湾のように背後に大都市を持つ海域では大量の生活排水等が流れ込むことに加えて、外海との海水の循環も起こりにくいことから、慢性的な赤潮の発生や、有機汚濁による貧酸素水塊による水産動植物への大きな影響などが発生している。このプロジェクトは現在全国4カ所（東京湾、

をいかに素早くろ過できるかという速度の改善も考えられる。

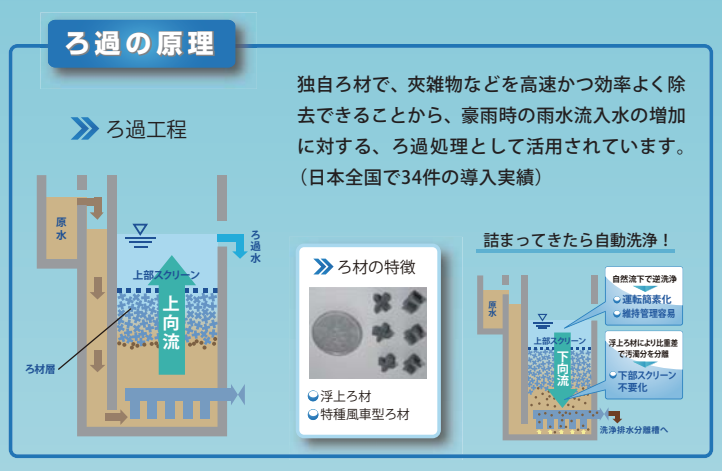
今回取材させていただいたのは「高効率固液分離システム」である。

ろ過の方法は、最初沈殿池と呼ばれる池で、時間をかけて汚れを沈めて取り除く方法が一般的だが、「高効率固液分離システム」では、特殊なろ材の間を汚水が通り抜ける間にろ過し、浄化した処理水のみを次の工程に排出する方法が行われる。その結果、従来よりもはるかに高速での処理が可能となる。局地的な集中豪雨にも対応できる技術として注目されているという。ついでだが、ろ材が汚れてしまった場合には自動的に洗浄される。

さらに、下水処理施設から排出される処理水自体の水質をさらに高める「高度処理」という概念も実用化されている。

従来の下水処理施設で行われているバクテリア等を使った標準活性汚泥法では充分に取り除くことのできない窒素やリンを取り除き、よりきれいな処理水をいかに排出するかという取り組みである。

具体的にはリンを除去する「嫌気―好気法」と、窒素とリンを同時に除去する「嫌気―無酸素―好気法」の2種類の処理方法があり、いずれの場合にもより綺麗な処理水を放出することが可能なことから、環境への配慮の点で大きく注目されている技術である。



高効率固液分離システム　雨天時でもろ過処理して放流

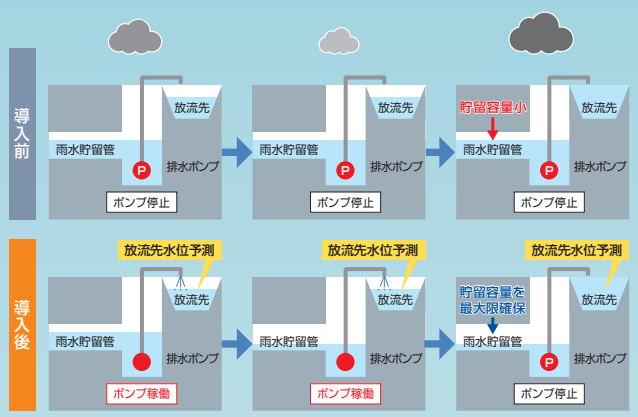
■雨雲を早期に探知し、ゲリラ豪雨対策

携帯電話のアプリ等で登場する「雨雲レーダー」をご存知だろうか。直近なら10分単位レベルで雨雲の動きをキャッチし、携帯電話の画面上に表示することができる。

昨今の気候変動で増大する急激な豪雨では、いち早く下水処理施設の雨水タンクから放出をおこない、急な雨に備える必要がある。

下水道界でも、複数の高解像レーダーによって雨雲の発生をいち早く検知し、短時間で、降雨場所・降雨量を予測し、浸水エリアを住民に配信する取り組みが進んでいる。雨水タンクを最大限に活用できるだけでなく、浸水に対応する時間を確保でき、浸水被害の軽減に繋がるという。

東京エリアでは「東京アメッシュ（http://tokyo-ame.jwa.or.jp/）」とい名前で公開されているが、その管轄が「東京都下水道局」であることを見れば、いかに下水道界が雨量の予測に力を入れているかは一目瞭然である。



【雨雲観測による施設運転支援】

- 予測を含む放流先能力の情報をもとに、排水ポンプを事前に運転することにより、貯留容量の最大化を実現。
- 放流先の予測水位に基づき、下流側の浸水を助長しない範囲においてポンプを連続運転します。

本紙が準グランプリを受賞
第5回　GKP広報大賞

■下水道会の広報部門で評価

下水道界で展開されている広報活動のうち、他業界への効果的な訴求など下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる広報活動事例を広く発掘、表彰。下水道界に広く普及させていくという命題で実施されている下水道広報大賞。

2013年度（平成25年度）からスタートし、5回目を迎えた今年、グランプリを獲得したのは広島市下水道局の「広島東洋カープとコラボ!! 下水道PRポスター」である。評価としては、

市民球団の草分けである広島東洋カープとのコラボレーションにより、「地域の下水道」、「みんなの下水道」というメッセージ性の強いポスターになっている。球場の上と下という構成が見事。

とあり、カープの1軍で活躍し始めた下水流（しもずる）選手とカープ球団、マツダスタジアム、雨水貯留池をコラボさせた広報展開が高く評価された。

じつはその次点である準グランプリを獲得したのは本紙である。

暮らしの視点から下水道の貢献や魅力を捉え、そこで働く人物にも光を当てながら、長く下水道の報道に貢献されてきた「継続性」を高く評価した。

という評価をいただいたのだが「継続は力なり」の言葉通り、創刊号から下水道の情報を続けてきたことが評価された。

東京の下町に関する情報をお伝えしようとするとき、水の都市とも言える「東京」にとってとても大切なインフラのひとつが「下水道」であるとの観点から、一度整備してしまえば目立たない存在になりがちなインフラである「下水道」の価値を訴え続けてきた。

ゲリラ豪雨など浸水被害につながる気候変動も伝えられる中、下水道も新たな取り組みや技術の導入が不可欠ないなりつつある。これからも最新の情報をわかりやすくお伝えしたい。

大阪湾、伊勢湾、広島湾）において推進されている。

いずれにしても老若男女が楽しめるイベントなので、ぜひ出かけてみてはいかがだろうか。

もちろん、本紙もゆかりの深い「下水道」関連の展示もおこなわれている。

■開催概要

名　称　東京湾大感謝祭2017

会　期　2017年10月21日(土)～22日(日)
（22日(日)は午後4時30分まで）

開催時間　10時～17時

会　場　横浜赤レンガ倉庫
神奈川県横浜市中区新港1-1
横浜赤レンガ倉庫周辺海上
（象の鼻パーク、運河パーク、赤レンガプロムナード）

主　催　東京湾大感謝祭実行委員会

共　催　国土交通省関東地方整備局、環境省、横浜市、東京湾再生官民連携フォーラム、（一財）みなと総合研究財団、東京湾の環境をよくするために行動する会、横浜港ポート天国推進連絡協議会

後　援　東京湾再生推進会議、文部科学省、海上保安庁、水産庁、国土交通省関東運輸局、（国研）海洋研究開発機構、（国研）水産研究・教育機構、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、さいたま市、千葉市、川崎市、横須賀市、横浜港運協会、（公財）横浜観光コンベンション・ビューロー、（一社）横浜港振興協会、FMヨコハマ、経団連自然保護協議会、（公財）日本釣振興会、（一社）日本マリン事業協会、（一財）日本海洋レジャー安全・振興協会

東京湾再生官民連携フォーラム

林溪清の乗ってみました

モーター・ジャーナリスト林溪清の試乗レポートです。
とかく小難しくなりがちな自動車の記事を「誰にでも判りやすく」綴ってみました。

■HONDA FIT RS（ホンダ・フィットRS）

2017年6月末に発表されたHONDA・FITは、基本的に2013年に登場した3代目フィットの基本設計を継承した、いわゆるマイナーチェンジ判として登場した。ご承知の読者も多いと思うが、この3代目FITは、ホンダが推進するグローバル・オペレーション改革の旗印とも言えるモデルだったが、華々しいデビューとは裏腹にリコールが相次ぎ、イメージ的にも経済的にも大きなダメージをホンダに与えてしまったのは残念な事態だった。

その3代目がマイナーチェンジされたという前提でこの新しいFITに試乗した時に感じたのは、全く別ものとも言える「建付」の良さだった。前号でご紹介したフリードもそうだが、最近のホンダ車の「建付」の良さは特筆ものだと思う。開発者に聞いても溶接箇所やフレームの素材を見直しただけというが、FITはマイナーチェンジを経てまったく別のクルマに生まれ変わったと行っても過言ではない。HONDAはフレーム作りの「何か」を掴んだのではないか。そう思わせる好ましい進化である。

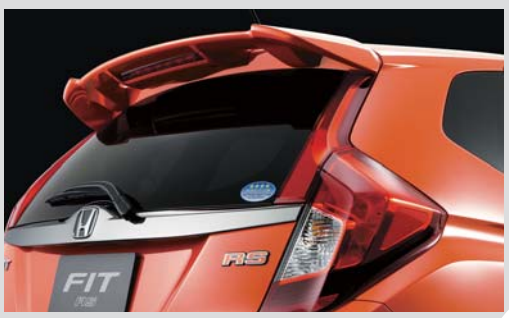
さて、その3代目FITのマイナーチェンジと同時に、HONDA伝統のスポーツバージョン「RS」のネーミングが復活した。懐かしいところではCIVIC・RSがあったが、こちらは足回りやエンジン自体にも手が入り、文字通りスポーツ・モデルとして人気を博していたが、今回のFIT・RSに関してはそうしたホット・モデル的なイメージではなく、ほぼノーマルな基盤にバンパー、ゲートスポイラー、サイドシルガーニッシュなどを装備して外観を演出するとともに6速のマニュアル・ミッションを装備した、といった印象である。憶測だが、直後にCIVIC・TYPE・Rという本格派スポーツ・モデルの登場を予定していることから、弟分のFITはちょっと控えめなスポーティにとどめたというのが筆者の見解である。

試乗したのは、そのマニュアル6速ミッションを装備した「RS」である。クラッチを踏み、1速にシフトし、クラッチミートをして走り出した瞬間から、妙に浮き浮きしてくるからマニュアル車は嬉しい。基本的なスペックは他のモデルと同じエンジンだが、比較的低回転からトルクがあり、神経質なクラッチミートをしなくてもエンストはしない。それよりも、速度に合わせてギアをセレクトし、クラッチを踏みながらシフトチェンジをしていくと、どこかに置き忘れてきた「運転する悦び」みたいなものが体のどこかに再生してくる。

そこに、前述の「建付」のよいフレームである。

コーナーに進入しながらシフトダウンをし、前荷重を与えて前輪の舵角にクルマを乗せていくとき、しっかりとしたボディ剛性があればこそドライバーの意思が車に的確に伝わる感覚は確かにスポーティなものだった。

唯一、残念だったのはクラッチの軽さだ。旧車を運転していると左側の臀部が痛くなるのは重たいクラッチのせいだが、それにしてもFIT・RSのクラッチは軽い。だからどこで繋がるのか掴みにくいのだ。もう少し重くてもよい印象だ。



燃費は語るべきモデルではないが、それでもガソリン1リットルあたり20キロメートルほどは走ってくれた。

■TOYOTA PRIUS PHV（トヨタ・プリウス・PHV）

2016年秋に登場予定だったPRIUS・PHVの日本での発売は2017年2月。さまざまな革新技術を導入したそのPHVに数日間試乗するチャンスを頂いた。

何よりも気になるのはそのモーターでの走りだ。ただ基本的にはモーターで走行している限りいわゆるEV（電気自動車）なので、そこはまさに現代的なエコカーのイメージそのままの走りで、音もなく走り出し、切れ目なく加速していく様は、以前試乗した燃料電池車MIRAIなどとも共通のものである。

今回は高速道路を含み往復で500キロメートルほどの距離を走った。往路では積極的に高速道路のサービスエリアや市街地の高速充電ポイントを活用し、小休止や食事などのタイミングに合わせてこまめに充電を行い、復路ではほぼ一気に250キロメートルほどを走ってみた。ちなみにトータルで500キロメートルを走行して消費したガソリンは16リットルだった。単純計算でガソリン1リッターあたりの走行距離は31・25という燃費になる。

最近廃業するガソリンスタンドが増えている

紀文

子どもたちに伝えたい お正月絵本作品
絵本原画展

11/ 3（文化の日）4日（土）
10：00 ～ 18：00

東京ソラマチ®に一足早いお正月
絵本を通じて
日本の伝統文化に触れる

■10年の歴史集大成

紀文では、今年で10年目を迎える「子どもたちに伝えたいお正月絵本作品募集」の集大成として、これまでの受賞作品をお披露目する原画展を、文化の日11月3日（金・祝）と4日（土）の2日間、東京スカイツリータウン®内の「東京ソラマチ®スペース634」にて開催する。

この作品募集は、絵本を通じて親子で正月文化に親しんでもらうことを目的に2008年にスタート。これまでに集まった作品は407点にのぼるという。

会場には最優秀賞に選出された作品の原画はもとより、展示のために製本した入賞作品も閲覧できるという。

また子供たちや親子でお正月の意義やいわれを学べるワークショップ（絵本読み聞かせ、祝箸袋&水引教室、お正月クイズラリー、お正月顔出しパネル等）も用意される。

■開催概要

日　時　11月3日・4日・10時～18時
場　所　東京ソラマチ®・スペース634
（東京スカイツリータウン®内）
内　容　過去9回の最優秀賞作品全ページ原画展示、入賞作品の製本展示、正月文化の継承をテーマにしたワークショップ開催
参　加　無料（事前申し込み無し）
問い合わせ先
紀文食品 お客様相談室（平日9時～17時）
（0120-012-778）

前回の最優秀作品

印象を受けるが宜なるかな。この燃費では商売が成り立たないのも無理はない。

さてそのPRIUS PHVの走りだが、11・6インチというテスラばりのカーナビを操作して目的地を入力したら、早速走り出すと同乗者がいきなり

「このクルマうるさい」

と曰った。よく聞いてみると、どうやらクルマ自体があまりに静かであるために、ロードノイズをうるさいと感じたとのことである。逆に言えば、それほど無音なのである。

乗り心地は比較的ソフトだ。低速域では小さな路面の凹凸などは上手くいなしてくれるが、ちょっと無理な速度でコーナリングをすると、かなり大きなロールを体験することになる。あくまでも、エコカーとして大人しく走るのが鉄則である。

試乗する際に便利だったのが付属品として付いてきたi—Phoneである。eConnect for PHVというアプリを使用すると、クルマから離れていてもバッテリーの残量や充電中の残り時間が把握できるだけでなく、遠隔操作でエアコンの始動まで出来るのである。

サービスエリアなどで食事をとりながら充電をする時など、残り時間が離れたところで把握できて頗る便利である。

バッテリー容量が不必要に大きくなく、急速充電なら20分ほどで充電が完了するので、充電での時間つぶしも苦にならない。

EVの場合、現状ではどうしても2時間ほど走って1時間充電するというパターンになり、いかにイギリスやフランスが提唱してもEV一辺倒にはなりにくいと思うが、PHVなら充分な実用性があると思う。

残念ながら、自宅などで100ボルトのケーブルを使用して充電すると10時間以上を要するので、そこは覚悟と準備が必要である。

■HONDA N—BOX（ホンダ・N—BOX）

2017年9月に発表されたばかりの2代目HONDA N—BOXにさっそく試乗してみた。

フルモデルチェンジだが、良い意味で印象はあまり大きく変わっていない。我が国の自動車メーカーにありがちなのだが、フルモデルチェンジというと以前のモデルのイメージを払拭してガラリと別の車にしてしまう傾向が多い。アルファ・ロメオの盾のように、どこかそのメーカーのアイデンティティーなり前モデルの特徴なりを継承していくことで伝統が生まれたり、文化が継承されたりしていくのだが、エンブレム（これも紋章というよりイニシャルという傾向がある）だけが残って、すべてが新しくなってしまうのはどことなく許せない気がしていた。

今回のN—BOXのフルモデルチェンジは、しっかりと前モデルのイメージを受け継ぎ、しかも乗ってみると全く別のクルマという印象を感じることのできる、とても効果的なものである。

試乗したのはノンターボの660ccだが、まず驚いたのはそのボディ剛性の高さと静粛性だった。FITの項でも書いたが、最近のホンダのフレームは、以前に比べて隔世の感があり、じつにしっかりした印象を受ける。さらに遮音がしっかりしていることから、エンジン音はもとよりロードノイズまで、しっかりとしたボディがはね返してくれるイメージである。

余計なお世話だが、標準のカーナビに装備されている後席との会話ボタンは、この静粛性なら不要であると思うが、いかがだろうか。

走りは軽快だ。もちろん過給器などは一切付いていない660ccのエンジンであるから非力なことは否めないが、必要にして充分な走行性能は発揮してくれる。

後席の足元はほんとうに広く、低床ならではの乗り降りのしやすさと相まって、ファミリーカーとして老若男女に好評であった。

さらに特筆すべきは乗り心地のしなやかさである。どうも最近は全体として乗り心地という言葉自体が死語になりつつあるようで、ゴツゴツと路面の凹凸をシート越しに感じる例が少なくないが、新型N—BOXにはそれがないのだ。低速域から高速まで、しなやかに路面からの振動を受け流すといった印象の乗り心地は、近年なかなかお目にかかれないものである。

燃費は都内の渋滞を含む市街地走行が主体でガソリン1リットルあたり14～15キロメートルほどである。ノンターボの軽自動車で、この数値は納得のいくものであろう。

前から気になっていたのだが、N—BOXのリアのスライドドアのガラスはどうして半分までしか開かないのだろう。もちろんガラス自体の天地が長いということはあるとは思うが「窓ガラスを開けた」という実感がないのも事実だ。できれば、あと5センチほどでも開くと良いのだが。

METAWATER

くらし、産業の基盤を支える
水・環境トータルソリューションカンパニー

メタウォーター株式会社
www.metawater.co.jp
東京都千代田区神田須田町一丁目 25 番地　ＪＲ神田万世橋ビル

東証一部上場
証券コード9551

番組表

www.792fm.com

Rainbowtown FM
KOTO COMMUNITY FM BROADCASTING
79.2MHz.

FAX でのリクエストメッセージは…
FAX.03-5634-0792

メールでのリクエストメッセージは…
info@792fm.com

災害時の強い味方
江東区の緊急情報はレインボータウン FM で
8：00～22：00 全番組生放送（土日は 9：00～22：00）

・災害時の緊急伝達手段として機能します
・地域に密着した緊急情報をいち速く伝えます

Time \ Day	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
7:00	朝まで音楽～Non Stop Music（株式会社 有線ブロードネットワークス提供）						
8:00	江東区の地域情報、交通情報、ニュースを音楽と共にお届けします 大江戸ワイドスーパーモーニング ［こうとうCITYインフォ］ 読売 N 天 交				月 成田沙耶香 火 星間美佳 水 小川花子 木 星間美佳 金 巻本知美	シンクロ☆プラス 江東モ～ニングッ830 上村潤	ラジオdeハピネス 杉山明久実 夢スイッチオン 池田光晴
9:00						江東モ～ニングッ!! 上村潤 新井美穂	大江戸情報局
10:00	おもいで歌謡うた物語 月 大木綾子	火 野村未奈	水 徳永淳とコロラティーノ	木 立花英樹	Crystal ISM 樹凛	Colorful Style Lab 奥田絵美 河田京子	ラジオこうとう 望月香織 大江戸情報局 甚野謙 ［教育は現場で動いているんだ！］［CAREER TALK RADIO］
11:00	イレブンミュージック 月 Chiaki	火 松本哲浩	水 豊田圭一 池田哲平	木 奈月れい		Weekend Fun クロリサ 櫻 早乃香織 劇団EXILE秋山真太郎	
12:00	ポップス・ロック・ジャズ・オールディーズ・・・・ 懐かしの洋楽ナンバーから最新ヒットチャートまで・・・・ あなたのリクエストが作るジュークボックス！！ Radio JUKEBOX 月 毎度おおきに福原さん! 火 今週のSUNAMO 水 武蔵野大ちゃんねる 木 Ole! FC東京U-23 金 今週の東都よみうり				ＤＪキノポップ	大江戸ワイド Super Saturday 林渓清 森田千鶴 セーンジャー	ラジオドラマ甲子園 Crossing MUSIC 渡邊沙志 Michiko. D山口
13:00						Samedi Lips 新谷江里子 ひづきようこ 佐江木悠介 倉内マリカ	ザ・豊洲 FM芝屋
14:00	元気 DE 満タン！ 竜小太郎 堤大二郎 ミッチーナ TOMIKO☆ DJ遊子	火曜日は夢がいっぱい! 野風増ファミリー	Crystal☆Shower Crystal Member	Stand by Me 二喬礼	滝 洸一郎の一刀両断 羽純&YUKKIYの Colorful Happy Life	HAPPY-GO-LUCKY 加藤一華 なんじゃシスターズ 梢 かをる★ 木田健太	K-triangleの ラジオですいません
15:00	アンフェリシオン スタジオから放送 ニュースや生活情報を心地よい音楽やトークと共にお届けします 大江戸ワイドスーパーアフタヌーン ［こうとうCITYインフォ］ 読売 N 天 交				月 島田愛 火 平尾美奈 水 宮永明子 木 坂野玲 金 星乃心美	サタマニ♪ 宮路一昭 BRs 佐倉薫 村崎弘史 星守紗凪 東城咲耶子 赤星真衣子	江東アフタヌ～ン！！ 奄美へシンクロせよ！
16:00						EMOTIONAL BEAT 北川弘美 紅蘭 山口めろん 松岡美穂	川上実津紀の 映画と音楽、これが好き! Idobata Now 王真祐 青木愛理 青木梨乃
17:00	泉水いづみの ねばる門には福来る 泉水いづみ 浅野勝盛	あすか美生の Dream ドライブ あすか美生 みっちー	みさよの ふるさと自慢味自慢	原めぐみの EN♥JOYトーク 原めぐみ 壮一朗 星乃愛実 町田正	Richymanの エンタメ倶楽部 Richyman 廣瀬莉奈 今井めぐみ ジ・アース 佐助	ミュージックデリバリーDX KATSUMI 広瀬玲奈 松岡英明 Reona あやの	SHOWGATE MODELSの LOVE POTION
18:00	月曜ルーム	松本美奈子のbeautiful days	ラジオこうとう 笹川真樹子	銀座 ROYAL SALON	ナイスクサテライト 松尾里央	PEACE！ AERIAL	植草美幸の恋愛・結婚相談 吉川美津子の くらサポラジオ
19:00	大江戸ワイドスーパーイブニング ［こうとうCITYインフォ］ 月 東京シティ・フィルの“らじおけ。” 第2・4木 Nathalie´s Beauty Talk 火 DJ TAKAの Super Magic Talk 月～木 Rainbow Power Play 木 Ole! FC東京U-23 読売 N 天 月 小川花子 火 佐江木悠介 水 DJスマイリー 木 石井春花				岡村洋一の シネマスクエア	上野 淳の 東京☆夜会	Crystal 81810 樹凛 ミッチーナ
20:00	ヒアタルシアタル！ 濱田和幸 清河寛 嵯峨完	火曜BEAST!!!!! 北村優衣 浜田由梨 RBT4G 髙山璃奈	KIBA BREEZE !!! ネカタイッセイ 木幡ケンヂ 春那美希 藤木由貴	東京スカイラジオ 風呂わく三 玉井美輪 スカイラジオメンバー	Friday Hit☆Magic 椎名慶治 SHOw Yamamoto ヤスP ガルパラメンバー 福島茂人 ドルラジメンバー	792 TOKYO HOTLINE FRANKEN MC景虎 DJ K.T.	Reライフ情報局 肘井哲也 ミチヒサのRock The Spirit
21:00	Crystal Rainbow Club 樹凛 ミッチーナ	ミュージックデリバリー 浅見ユウコ 空想委員会 武部聡志 鳥山雄司 城南海	猫ひろしの キバRUNラジオ 猫ひろし チェリー吉武 碧井愛莉	アキナめぐみの ふれんど3 ナイト♥	今西祐介の ハロアル・レディオ	Saturday Disco Power Power 98	TALKひぼぼボたます スパーク泣村 ユメモノガタリ Dream Hacthing
22:00	Happy Tonight Mikina 壮一朗のSmile Smile Smile	小山田将のシネマサブリ 小山田将 清水由紀 ACROSS★TALK アクロスメンバー	Fishing Train 吉田遊 吉田撃 岩井靖征 Perfect Free 雅也	Sounds Good 江東ミッドナイト！！	三石郷史の In the Dreaming Class	Magi's Cafe Anjupa-miパワー Mirai	幸せ DE Night 菅生新 川上実津紀 kawaii japan presents COSPO RADIO SHOW
23:00	Fan×Fun 月 ウェイウェイ 渋谷真理子 火 森本73子 梶山はる香 水 桐村まり 井上優佳 木 レノ聡 木村昂 金 池田彩 尾崎えり						
24:00	朝まで音楽～Non Stop Music（株式会社 有線ブロードネットワークス提供）						
	70´s Hits	80´s Hits	90´s Hits	Love Ballad	R & B	Soul	Jazz

1710

※ 番組は予告無く変更する場合があります。予めご了承下さい。

表紙のひと

屋形船あみ新「皆藤進」さん

神田川の畔、柳橋に並ぶ数件の船宿のひとつが『あみ新』である。

第二次大戦後、いち早く開業した柳橋の船宿のひとつで、進さんはかつて釣り船の船頭もしていたという。それも一回の釣行で相模湾の烏帽子岩から房州までを駆け巡るようなダイナミックな船頭さんだった。

「だって釣れないんだからしょうがないよ。クーラーボックスが空っぽのまま、お客さんを帰すわけにやいかないからさあ」

そういって笑う進さんは漁師の顔をしていた。

いまは『あみ新』も屋形船専門となり、息子の稔さんに代を譲ったが、それでも進さんの姿は毎日のように船とともにある。

「あみ新」の屋形船は基本的に貸切専門だが、古くからの馴染み客も多いそうだ。船に貼られたたくさんの千社札が、『あみ新』の馴染み客の多さを示している。

「江戸まち通信」2017 年秋号
2017 年 10 月 10 日発行

【発行】特定非営利活動法人江戸まち通信
https://www.edomachi.net/
住所　千葉県船橋市坪井東 1-20-24
「江戸まち通信」編集部
TEL.（047）490-2001
【編集・発行人】林　溪清
【デザイン】キュービシステム株式会社
【表紙写真】小山一芳
【制作協力】レインボータウンエフエム放送株式会社

広告・情報募集中

編集後記

今回の特集では「屋形船東京都協同組合」にひとかたならぬお世話になった。

そこで出会ったのが「江戸ことば」である。

表紙にご登場いただいた『あみ新』の皆藤進さんは、撮影終了時に

「おい、コーシー出せよ」

と息子の稔さんに話しかけた。昔話では

「羽田のシコウジョウの近所でヒオシガリができたよな」

となるし、風呂敷は「フルシキ」である。

懐かしい「江戸ことば」が次々と登場し、まるで落語の世界のような会話が飛び交う。

「メシを食うのに一時間も並ぶなんて信じらンないよ。どこ行ってもサ、オイラなんかいちばん最後に入って、んで最初に出て来ちゃうもの」

こうした会話が日常的に消えて久しい。

「江戸まち通信」としては、こうした「江戸ことば」への憧憬も追及していきたいと思う。

なにせ落語の世界ですら、生粋の「江戸ことば」を日常的に話す噺家さんは古今亭志ん朝さんを最後に絶えたといわれているくらいである。

いまはなかなか聞くことのできない「江戸ことば」が船宿の世界ではまだ現役で息づいている。

しかしながら、それも風前の灯火。進さんたち今の親方たちの代までのように思える。

「いき」で鯔背な「江戸ことば」と江戸っ子の心意気。そうした原風景が消えていく様を、いま正に我々は目撃しているのかもしれない。

言葉だけではない、テレビやラジオといったメディアの世界、経済界や政治の世界でも、「いき」とは対極の「野暮」が横行してはいないだろうか。

テレビのドラマを見ても、昭和 30 年代の時代考証の中に、平気で茶色い髪の毛が登場する昨今である。

江戸の「いき」を今に伝える屋形船の特集を通じて、「江戸ことば」に代表される江戸文化の行く末を案じた編集であった。

江戸まち通信編集長　林　溪清